

！ 養鶏・養豚生産者、関係者の皆さまへ

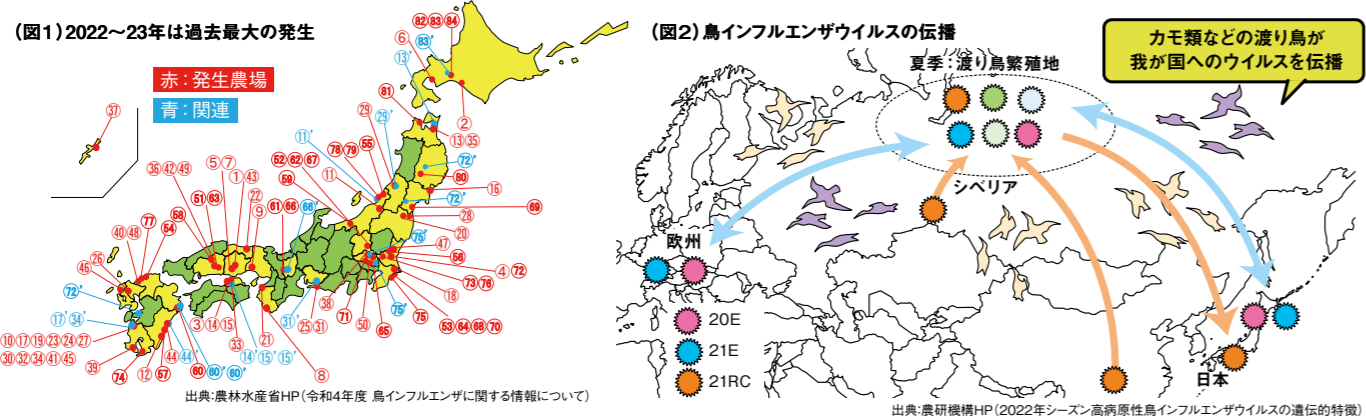
農場、関連施設に **鳥インフルエンザウイルス**、**豚熱ウイルス** を

持続可能な日本の養鶏・養豚産業のため、業界全員で防疫対策の基本を徹底しましょう

持ち込まない 広げない 持ち出さない

鳥インフルエンザウイルスは、渡り鳥とともに日本国内へやってきます

2022～23年は、**26道県84事例約1,771万羽** (図1)の殺処分と、事例数・殺処分羽数とも過去最多でした。発生時期も22年10月～23年4月の7カ月間と長期化しました。野鳥ではカラスからの検出例が多数(約3割)報告されました。鳥インフルエンザウイルスは、渡り鳥のさまざまな飛行経路によりシベリアの繁殖地に集まり、越冬のため日本に飛来することで国内に侵入します。



(図3) ウイルス侵入経路の防疫徹底

期間：10月～5月 (8ヶ月間)

渡り鳥が飛来する10～5月までは警戒期間として、ウイルスを農場・家畜舎に侵入させないための防疫対策を一層強化する必要があります。

2023～24シーズンも、昨シーズン同様、渡り鳥とともに日本に侵入する可能性があります

家畜舎は家畜防疫の最後の砦、徹底強化でウイルスの侵入を防ぎましょう

(写真1) 開口部の補修の様子

(写真2) フィーナチュラルFNPパウダー

(写真3) 逆性石けんへ添加する様子

(図4) 衛生管理区域と管理区域外での対策

衛生管理区域内専用の靴と鶏舎内用長靴が交差しないよう、スノコなどを設置し物理的に区画を分けることが重要です。

豚熱(CSF)は、九州まで広がっています

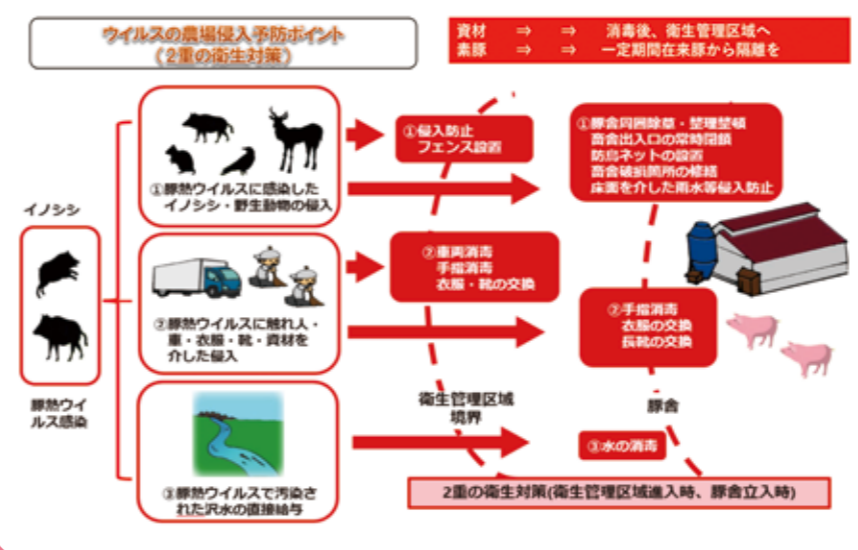
平成30年9月9日、岐阜県の養豚農場において、日本では、平成4年以来26年ぶりとなるCSFの発生が確認され、令和5年8月31日までに**89事例約37万頭**が殺処分されています。令和5年8月30日には、野生イノシシでCSFが未検出だった九州(佐賀県)で初のCSF発生があり、野生イノシシでのCSF検出の有無にかかわらず、防疫対策を徹底することの重要性が示唆されています。ワクチン接種農場でも発生が確認されていますので、飼養衛生管理の徹底をしましょう。

野生イノシシは、34都府県でCSFの陽性事例が確認されています(図1)。

(注意) CSFは、人に感染することはありません。仮に、CSFにかかった豚の肉や内臓を食べても、人体に影響はありません。感染豚の肉が市場に出回ることはありません。



ウイルスを農場に侵入させないことが重要です。2重の衛生対策で豚舎内へのウイルス侵入を防ぎましょう。



農場での豚熱対策の基本をまとめた資料のほか、事務所や農場で掲示できるポスターも豚熱対策にぜひご活用ください。(下の二次元コードよりダウンロードできます)

効果的な防疫資材の利用でウイルスを 持ち込まない、広げない、持ち出さない

(表1) 畜産用消毒剤一覧

消毒薬の種類	商品名	希釈倍率	希釈後の金属腐食性
逆性石けん	ロンテクト	500倍～2000倍	ほとんどない
	パコマ	500倍～2000倍	
	クリアキル100	500倍～2000倍	
	アストップ	500倍～2000倍	
塩素系	アンテックピルコンS	500倍～2000倍	少しある
	クレンテ	300倍～3000倍	
	スミクロール	100倍～1000倍	
	ファインホール	200倍～800倍	
ヨウ素系	バイオシッド30	500倍～1000倍	少しある
	ポリアップ16	2000倍～5000倍	
	エクスカット25%-SFL	200倍～1000倍	
アルデヒド系	グルタプラス	160倍～800倍	ほとんどない
	オーチストン	100倍～300倍	
オルソ剤	ゼクトン	100倍～300倍	少しある
	タナベゾール	30倍～200倍	
アルコール	消毒用エタノール	そのまま使用する	ほとんどない
過酢酸	ピネパワー	600倍(踏込消毒)	少しある
その他	消石灰(0.5～1.0 kg/m ²)	そのまま散布	アルミには不適
	水酸化ナトリウム	50倍溶液にする	
	炭酸ナトリウム	25倍溶液にする	

逆性石けんのアルカリ化で消毒効果の強化

(写真2) フィーナチュラルFNPパウダー

「フィーナチュラルFNPパウダー」は、水に溶解するとpH12.0以上の強アルカリ溶液となり、高い消毒作用を持ちます。さらに踏み込み消毒槽などの逆性石けんへ添加すると、低温下、有機物混入時もpHの低下を抑え、消毒効果を持続させます。

(写真3) 逆性石けんへ添加する様子

分量の目安

水の量	FNPパウダーの量(0.2%)
100L	200g
300L	600g
500L	1kg

消石灰の効果を目視で判断

リトアック

(写真4) リトアックを滴下してから「青色になるまでの時間」とpHの関係

pH12程度 (効果が十分見込める状態)

① 瞬時に青色

pH>12 瞬時

判定：○
劣化していない消石灰が多量にある状態

pH11以下 (これから効果が急激に低下、もしくは既に効果が低下)

② 10秒後の色は赤紫色、5分後青色

pH=11 10秒

判定：×
消石灰分が少ない状態これから短時間でpHは10未満になる

③ 滴下後しばらくは赤色(※翌日には青色になっているので注意)

pH=10 20秒

判定：×
消石灰はほぼ炭酸カルシウムに変化している状態

リトアック滴下後10秒程度で「青色」にならない場合は(②③の状態)、その後急激にpHが低下していくため、消石灰再散布を推奨

全農 JACCネット

JA全農が提供する畜産総合情報サイト

全農畜産総合情報サイト「JACCネット」では、分かりやすい家畜防疫に関するコンテンツを多数用意しています。農場従業員の方への研修用としてもご利用できますので、ぜひご活用ください。

家畜防疫の取り組み 鳥インフルエンザ 豚熱(CSF)

飼養衛生管理基準ガイドブック(鶏・豚)